岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価票（概要）

＜事前評価＞

評価基準　５：優先的に実施することが適当　　４：実施することが適当
　　３：計画等を改善して実施することが適当　　２：実施の必要性が低い
　　１：計画等を見直して再評価を受けることが必要

課題名	分子マーカーを利用した育種技術の開発とそれを利用した新品種の創出－１ 1.地球温暖化による作物被害の低減 2.「植物工場産やさい」の開発 3.新岡山ブランドの創出				
総合評価	３．３				
	５：　－人	４：　２人	３：　５人	２：　－人	１：　－人
助言・指摘事項等	１．完全人工光型の植物工場でトマトの生産が可能であるか。新品性の開発という点では太陽光併用型が考えられるので、育種面から考えた実用化にとって意味があるように思われる。 ２．テーマ数が多い。 ３．トマトは企業でも随分研究されているはずである。農業研究所での研究も考慮しつつ、より協同的な研究を考えるべきである。特に植物工場では栽培条件がＬＥＤの導入により可変できる。そうした条件も考えておく必要があろう。 ４．トマトの２つの研究テーマは同じ方法論を用いて集約した方が効果が期待できる。 ５．カキの研究テーマは独自性が高く、積極的に進めるべきである。 ６．本研究の課題は重要であるが、小規模研究グループの場合、具体的テーマをより特化する（研究員の優れた研究部分）ことが重要で、その面からの出口（貢献）を図るべきであろう。 ７．カキのプロジェクトについて時間的なことや形質を考えると、必ずしも計画通りに進める必要はないように思われる。 ８．焦点を絞って、研究を進めることが必要である。 ９．小さなグループで行う研究なので、一つに絞って花成形成に影響を与える因子について明らかにすることに重点を置くべきである。 10．人材そのものが岡山ブランドであろう。 11．トマトのプロジェクトは興味深く、方向性もよい。個別課題が多すぎるのが心配である。				

課題名	分子マーカーを利用した育種技術の開発とそれを利用した新品種の創出－２ 1.優良ブルーベリー・ブドウ品種の選抜マーカーの探索 2.高温ストレスによるブドウ果皮の着色不良改善				
総合評価	３．１				
	５：　－人	４：　１人	３：　６人	２：　－人	１：　－人
助言・指摘事項等	１．ピオーネの着色不良へのアプローチは県として重要だが、どのようにアプローチするかについての具体的な実験が示されていないように思われる。 ２．着色不良改善には栽培技術の改良が有効であり、それらの研究者との連携をもっと具体的に示すことが望まれる。 ３.ストレス耐性研究の経験を今回のプロジェクトにつなげる部合を強調することが望まれる。 ４．アントシアニン生合成系は既によく解析されており、こうした研究で対象とする植物における科学的知見は深まるとは考えられるが、それをどう活用するかが課題である。機能性、ブランド化とのリンクを充分に考えておく必要がある。 ５．目的に対して、取組み方が総花的になっているので、テーマを絞って、実質的な研究を展開することが必要であろう。 ６．人員との関係でターゲットを絞り込む必要がある。 ７．温度がどのように果皮色に影響するかを中心テーマにして、むしろ変わり種が出来れば観賞用として特産にすることも可能ではないか。 ８．実際に育種を行うチームと、より密接なディスカッションを行い、課題の範囲内でより具体的なテーマを細かく設定する必要がある。 ９．ブドウについては、他の形質も検討してはどうか。 10．目標を明確にすることが必要である。あまりにも漠然としている。目標を明確にした上で、現在のアプローチを再度検討すべきであろう。アントシアニン合成に限って言えば、特徴を生かすためには、今もっているFbox geneを研究する。しかし、ブドウでどこまで可能かは分からないが、より多面的な視点（ゲノムワイド）でのアプローチが必要ではないか。 11．育種目標を含めて、プロジェクト全体の見直しを考えてはどうか。				